

劇団うきうき Gekidan-Ukiuki

2008年、社協地域福祉大会の福祉劇「やっぱり宇城がよか」で旗揚げ。翌年「劇団うきうき」と命名。2011年以降は認知症市民フォーラム in うきで年1回、認知症をテーマに公演。松本富子会長。団員は現在12人。

〒 市社会福祉協議会 ☎32-1055

宇輝人

vol.45



認知症になっても誰もが
安心して暮らせるまちづくり

認知症は身近なもの 笑顔で伝え続ける

みんなで作り上げる

「このセリフの後は、私たちもオーッって言ったほうが良からるか」「すれ違う時に軽く会釈すると、近所の人の感じが出らんかねえ」劇団うきうきには、演出家や監督はいない。一人一人が意見を出しながら、セリフの言い回しを考え、動きを付けていく。まさに、劇のタイトル「俺たちが支えにや、どぎゃんするか」、そのままだ。



稽古が止まると自然に集まって意見交換が始まる

認知症を知ってもらいたい

2008年、宇城市社会福祉協議会(以下「社協」)が開催するさまざまな講座に参加していた市民に、社協の職員が「劇をやってみませんか」と声を掛けた。第1回宇城市社協地域福祉大会で福祉劇を上演するためだった。

初めての公演は大成功。翌年「劇団うきうき」と名が付くと、内容もより充実させた。2011年から上演の場を「宇城市市民認知症フォーラム」に移す。認知症をテーマにし始めてから10年で、認知症患者とその家族を取り巻く環境はずいぶん良くなった。

仲間がいるから

11月9日の本番に向け、8月から練習を開始。社協の職員が作った台本を手に、セリフや動き、劇団員同士の連携を確かめる。

練習では笑いが絶えない。創設メンバーの一人、北山則子さんはこう語る。

「練習で毎週会えるのがとても楽しい。自分が辛い時期もあったが、ここでみんなが支えになってくれて、ありがたかった」本番の幕が上がった。初めての

団員もベテランの団員も生き生きと躍動する。松本富子会長のコミカルな演技では会場に笑いが広がる。もちろん、認知症についてもしっかり伝えることを忘れない。充実の表情で終演を迎えた彼女らは、笑顔でこう話した。「私たち、本番に強かけん」



(後列左から) 広瀬のぶ子さん 柏木美和子さん 田村幸子さん 稲田さゆりさん 杉本妙子さん
(中列左から) 稲岡美千子さん 長尾美代子さん (最後列は 社協の川村将人さん)
(前列左から) 梶原幸太郎さん 植原玲子さん 松本富子会長 北山則子さん